

学校保健

平成14年9月1日

No. 243

(財)日本学校保健会ホームページアドレス
http://www.hokenkai.or.jp/

JAPANESE SOCIETY
OF
SCHOOL HEALTH

(財)日本学校保健会

保健主事は健康教育の要

全国学校保健主事会会長 鈴木守雄

人の平均体温を越す37℃ 38℃という高温の日が続く、8月 6日、7日の両日、東京のオリンピック記念青少年総合センターを会場に、第45回全国学校保健主事研究協議会 東京大会が開かれた。



第1日 理事会 評議会で13年度会務報告、会計報告、監査報告と14年度新役員、会務計画案、予算案について協議、すべてが承認された。続いて情報交換がおこなわれた。

各地区での会の運営の現状と悩みが話し合われた。短い任期、少ない予算が共通の悩みであった。

第2日 開会行事、会長 来賓挨拶の後、功労者表彰、基調講話と記念講演があった

◎基調講話「学校保健の現状と保健主事」文部科学省スポーツ・青少年局 体育官 戸田芳雄先生はあえて健康教育の重要性と、一層の充実の必要性を強調され、保健主事はその要としての役割が期待

されていると説明された。又、保健主事資質向上委員会報告書から、養護教諭との兼務や経験年数・任務のやりがい等について報告された。

◎記念講演 「心の健康と生活習慣について」国立公衆衛生院顧問 高石昌弘先生は、中学生 高校生では、学年性別を問わず明確な順方向の関連性が認められるが、小学生では一定の方向が確かめられなかった。又、健康な学校 Healthy Schools の提唱として、単に学校の中だけでなく家庭 地域社会を総合した組織活動が必要になるとして、学校の所在地が劣悪な環境であってもハンデキャップがあっても、心と体の健康を向上させるべく努めている学校を「健康な学校」というべきだと結ばれた。

◎研究発表 研究協議 「学校保健委員会」「心の健康に関すること」「薬物乱用防止に関すること」の三課題について発表者からパソコンを使っのプレゼンテーション、その後課題別に別れて、発表の補足説明、質問、指導助言者から問題解決方法の指導があり研究協議を終えた。

なお、来年度は8月21日(木)・22日(金)の両日奈良県橿原市で開催されます。多くの方々のご参加を心から期待しております。

目 次

保健主事は健康教育の要	1
各ブロック大会等の報告	2-9
事務局だより	9
コンタクトレンズ眼障害に対する啓発活動	10
学校保健募金協力者のご芳名一覧	11
小学生のためのうがい指導用教材	11
各地の活動ちょっと拝見	
小・中学生を対象とした「こども奉仕委員会」のスタートについて	12
学校保健活性化のために	
Q&A 学校における今後の結核対策について	13
平成14年度学校保健用品推薦の公示	14
虎ノ門	14
ショック21研究会に参加しませんか	15
カゴメスクール開催のご案内	15
会報をよくするため、読者のご意見を求めています。FAXでお寄せください。	

乞御回覧

校 長	教 頭	保健主事	養護教諭	PTA	会 長	副会長	

各ブロック大会等の報告

「学校新時代における豊かな 心と体を育む健康教育の推進」

第53回十三大都市学校保健協議会
名古屋市にて開催

名古屋大会実行委員会事務局

平成14年5月19日(日)標記協議会名古屋大会が、名古屋国際会議場で、約800名の学校保健関係者と1,000名を超える一般参加者を集めて開催された。

同協議会は、生涯を通じて、豊かな心をもち、たくましく生きる児童生徒を育成するため、指定都市12市の学校保健関係者が、当面する健康・安全の諸問題を研究協議し、学校保健の進展を図ることを目的に、毎年持ち回りで開催しているもので、今回の協議主題は、「学校新時代における豊かな心と体を育む健康教育の推進」であった。

また、今回、指定都市12市以外で、前回をもって退会した東京都有志による友情参加と、さいたま市によるオブザーバー参加が実現したことを特に付記する。

本大会は、午前9時30分から、メインホールであるセンチュリーホールにおいて、開会式が国家斉唱により厳かに始まり、文部科学省、日本学校保健会からの来賓を迎え厳粛に執り行われたあと、引き続き全体協議会が行われ、次期開催市等を決める議案が提案どおり了承された。

その後、記念講演として、NHK中学生日記「真剣！トーク&トーク～出会い」を演題として、若宮先生役で出演中の佐藤満月さん、番組ディレクターの船津貴弘さん、前名古屋市立小学校長の内田久幸さんによるトークショーを行い、それぞれの経験に基づいた貴重なお話を聞くことができた。

今回、特にテーマを“出会い”としたのは、コンピューターやゲーム、携帯電話など、今どきの中学生は、人との直接のふれあいが少なくなっているため、今回のトークショーでは、40年に渡り、時代時代の中学生在が抱える心の問題をテーマにし

てきたNHK「中学生日記」の協力を得て、過去の番組映像も交えながら、人と人との“出会い”について考えていくためであった。

その内容について、今までは関係者による専門的な講演会が中心であったが、トークと映像による、わかりやすく興味の持てる内容であったと、参加者から好評であった。

続く記念事業では、名古屋の高校生の元気はつらつな活躍ぶりを参加者に見てもらおうと、2つの高校に登場を願った。

まず、名古屋市立桜台高等学校ダンス部による、様々なコスチュームに身を包んでのジャズダンスを、次に名古屋市立若宮商業高等学校バトン部による、ボンボンを使用しての団体演技によるバントワリング。いずれも、若く健康的な躍動美にあふれる演技を披露し観衆を魅了した。

午後は4つの会場に分かれて課題別協議会が開かれた。「健康教育」「保健管理」「心の健康」「組織活動」の各分科会では、各都市の代表者からそれぞれ8つの口頭及び紙上提言がなされ、これらを受けて非常に活発な意見交換が行われた。特に、近年大都市を中心に深刻化している薬物乱用、いじめや自殺、不登校、性の逸脱行動など、子どもたちの「問題行動」の多様化と低年齢化を背景とした、心の健康問題に関する研究成果の発表には、多くの参加者の関心が集まり、質疑応答が続いた。

また、第4分科会は、従来の方式を踏襲しつつ、新たにシンポジウムの形式も加えて行い好評を得た。

以上のように、記念講演・記念事業への一般参加と、課題別協議会でのシンポジウム形式による



運営など、今後の大会運営に一石を投じ、大きな成果を上げた本協議会だったが、日曜日開催による学校関係者の服務の問題や、さいたま市の新加入の問題が先送りになるなど、時代の流れに沿ったこうした会議のあり方について、今後の運営への課題も残した。

なお、本協議会に合わせて開かれた学校医会及び学校歯科医会主催の前日協議会でも、内容の濃い研究協議や情報交換が行われ、有意義な時間が持たれた。

第24回 近畿学校保健連絡協議会

京都府学校保健会

はじめに

平成14年7月18日(木)に、京都府医師会館において、第24回近畿学校保健連絡協議会が近畿2府4県3政令指定都市の学校保健関係者約100名の参加を得て開催された。

協 議

まず、近畿2府4県3政令指定都市からの要望事項と提案理由を京都府学校保健会からまとめて報告し協議を行った。続いて、研究課題についても同様に京都府学校保健会から報告し、協議を行った。

その概要は、次のとおりである。

要望事項

- 健康教育の充実、保健指導の強化に資するよう養護教諭の複数配置の推進及び研修の位置づけ
- 複雑多様化する健康問題等に対応するため、保健室の施設・設備の充実
- 学校保健の推進役としての役割の重要性から保健主事の職務が十分に活用される体制の整備
- 児童生徒に対する健康相談活動の充実を図るため健康相談活動支援体制事業の継続
- 眼科医、耳鼻咽喉科医の校医制度や精神科医の相談体制の確立及び学校への配置等校医制度等の充実
- 心臓検診の小学校4年生での実施など児童生徒の健康診断内容の充実、強化及び学校医の



適正な健診・指導体制の充実

- 教室内空気のホルムアルデヒド等の化学物質検査など、新しい学校環境衛生の課題に対する取組の推進及び環境衛生検査実施に対する財政的支援

研究課題

- 学校保健委員会の充実と活性化
保健主事、養護教諭を中心とした保健関係者が智恵を出し、多様な形態の学校保健委員会等を開催し、内容の充実、活性化を図る。
- 今後の健康教育の在り方について
学校保健に関する現代的課題の解決に向け、具体的な学習方法や内容について研究を行う。
「総合的な学習の時間」における健康教育等の在り方等について研究を行う。
- 養護教諭の職務について
養護教諭の職務が多様化する中、養護教諭が保健室の機能を十分生かすため、その職務の研究を行う。

講 演

続いて、京都府立大学人間環境学部食保健学科助教授大谷貴美子氏から「長寿社会における医食同源」と題した講演をいただいた。

大谷先生は、食というのは、体を養うものと同時に心を養うものであり、食べ方によっては体も心もスポイルしてしまうことがあること。食を考える際には、安全性や栄養といった「どのように選ぶか」という側面と楽しみやコミュニケーションといった「どのように食べるか」という側面があること。よくいわれる子どもの孤食には、親子の緊張関係からの逃避という原因もあるのではないかと。乳幼児期の食体験こそがその子どもの一生の心と体の健康の原点となること。子どもには、

食べることが楽しいことを教えることが必要であること。バランスのとれた日常食、命ある食の積み重ねが心と体の健康をつくることをお話された。

おわりに

最後になりましたが、本協議会を開催するに当たり、日本学校保健会をはじめ、近畿2府4県3政令指定都市の学校保健関係者の御協力に心より感謝とお礼を申し上げます。

第48回中国地区 学校保健研究協議大会

岡山県学校保健会

「豊かな心をもち、たくましく生きぬく子どもの育成をめざして」を主題とした標記研究協議大会が、平成14年8月1日・2日に岡山県岡山市で開催された。

連日35度を超す暑さにも関わらず、大会には中国地区5県から約1000名が参加し、1日目には全体会、職域部会、2日目には班別研究協議会を行い、盛会となった。

大会初日の全体会では、大阪人間科学大学人間科学部原田正文教授から「学齢期の心の問題と保健室の役割－専門外来と子育て支援ボランティア活動からの報告－」と題した講演をいただいた。

原田教授は、小児思春期専門外来や、保健所をキーステーションにした家庭・学校・専門機関の連携による支援システムづくり、グループ子育て支援など、ご自身の幅広い活動から感じられた、学校と専門機関の連携の重要性、低学年までの子育ての大切さ等について、学校への要望も含めて

具体的に、わかりやすくお話して下さり、学齢期の子どもたちの心の健康問題に関わっていく上で大変参考になったと、参加者にも好評だった。

職域部会は、学校薬剤師部会、校長・園長部会、学校保健・安全担当教員部会、養護教諭部会の4部会に分かれ、「学校環境衛生の基準」改訂に伴う各県での対応、心の健康問題を抱えているさまざまな子供たちへの対応、生活習慣を見直すことを中心にした健康教育の必要性等、それぞれの職域において、学校保健推進上の新しい課題となっていることから各県の取り組み状況について、講義、研究協議、情報交換等を行った。

2日目は、7班に分かれて班別研究協議会を開催した。例年6～7題の研究協議題を設け、各研究協議題ごとに2～3題の研究発表を行い、その後で研究協議を行っている。

本大会では「生涯にわたりたくましく生きる力をはぐくむ保健安全教育」(盲ろう養護学校、小中高等学校)、「豊かな人間性をはぐくむ性教育・エイズ教育」、「快適な学習環境づくりをめざす学校環境衛生活動」、「歯・口の健康づくりをめざす学校歯科保健活動」、「豊かな人間性や社会性をはぐくみ、心の健康づくりをめざす教育活動」、「子どもの健康を守り育てる薬物乱用防止教育」の6題を研究協議題とした。

心の健康づくりについては、近年の子どもたちの心の健康問題の複雑化・深刻化をふまえ、本大会から新しく研究協議題を設定したが、200名を超す参加があり、関心の高さが窺えた。

各班において、細やかな日常の取り組みや、地域や学校の特色を生かした取り組み、先進的な活動についての研究発表があり、その後熱心な研究協議が繰り返された。

参加者からは校種を越えた情報交換もでき、子どもたちの発育・発達段階に応じた学校保健活動を展開していく上で有意義な内容であったとの感想が多かった。

最後に、本大会を開催するにあたり、御協力をいただきました日本学校保健会をはじめ、中国地区各県教育委員会及び学校保健会関係各位、御参加いただきました皆様方に心から感謝申し上げます。

なお、来年度は、島根県松江市において、第49回中国地区学校保健研究協議大会が開催されますことを申し添えます。



第2回九州地区 健康教育研究大会

鹿児島県実行委員会

昨年の佐賀県での開催に続き、今年は8月5・6日の両日、鹿児島市民文化ホールを中心に、「生涯にわたって心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進」を主題として、九州各県から約1400人の健康教育に携わる関係者が一堂に会し、シンポジウムや分科会別研究協議を行った。

<第1日 (全体会)>

開会式では本大会の米盛会長の、「学校における健康教育を推進するには、参加者それぞれの専門性を十分生かすことが重要」という挨拶に続き、(財)日本学校保健会・内藤専務理事が「子どもの健康課題は多様化しており、成果を健康教育に生かして欲しい」との矢野会長からのメッセージを代読された。

開会式に引き続き行われたシンポジウムでは、4名のシンポジストによる提言をもとに研究協議が行われた。

【シンポジウム】

～テーマ～「豊かな心をもち、たくましく生きる力を育む健康教育の推進」

○「主体的に健康な生活を実践できる生徒の育成」

～課題学習の支援を通して～

沖縄県糸満市立潮平中学校 下地京子養護教諭

下地養護教諭は、選択教科に課題選択学習を導入し、授業を通して自己課題に応じた健康な生活実践項目を設定させ、実践化できる生徒の育成を提言された。

○「豊かな心とタフな体の生徒の育成」

～学校教育・地域の連携を通して～

長崎県諫早市西諫早中学校 立川智子教諭

立川教諭は、朝の読書活動を中心とした個に応じた教育実践やスクールカウンセラーとの連携、職場体験学習を通じた自己の生き方の考察など提言された。

○「豊かな心をもち、たくましく生きる力を育む健康教育の推進」

～豊かな心は健康な身体から～

宮崎県山田町立山田小学校 井上キヌヨ技術主査

井上技術主査は、「望ましい生活習慣の定着」のため、学校栄養職員の専門性を生かし、食と健康に関する情報や食事環境の整備の重要性を提言された。

○「地域における生涯健康教育」

熊本県立八代南高等学校 桑原 奥 学校医

桑原医師は、小児生活習慣病の成因の60%は生活習慣、20%は環境因子であると発表され、個人の健康は地域に文化に左右される。そのため地域複合型スポーツクラブなどと連携した健康教育を目指すべきだと提言された。

【特別講演】

演題 「わたしと体操」

講師 具志堅幸司氏(日本体育大学助教授)

昭和59年ロサンゼルスオリンピック体操競技のゴールドメダリストである氏の、体操を通じた話から子どもを伸ばす指導の在り方など多くの示唆をいただいた。印象に残った言葉としては、生活のあらゆる場面で良い言葉をたくさん使えば、その言葉により自分を変えられる。さらに、自分の心の支えになった一冊の本も紹介されながら、参加者の心に残る講演内容だった。

<第2日 (分科会)>

午前・午後と合計12の分科会を開き、それぞれの分科会ごとに3名の研究発表と研



究協議を行った。

第1分科会

心の健康の保持増進を目指す健康教育の進め方

第2分科会

学校環境衛生活動の進め方

第3分科会

安全教育の進め方

第4分科会

性教育・エイズ教育の進め方

第5分科会

生活習慣病予防の進め方

第6分科会

健康に関する総合的な学習の時間の進め方

第7分科会

保健学習・保健指導の進め方

第8分科会

薬物乱用防止教育の進め方

第9分科会

学校経営と特色ある組織活動の進め方

第10分科会

健康相談活動の進め方

第11分科会

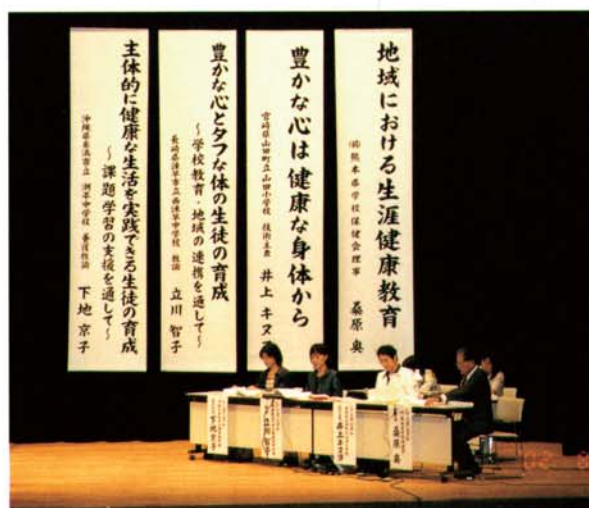
食に関する指導の進め方

第12分科会

栄養管理・衛生管理の進め方

この2日間、発表者からは多くの提言を、指導助言者からはこれからの健康教育推進のために適切な示唆をいただき、実りある大会となった。

本大会の開催に当たり御指導・御協力いただいた皆様方に心から感謝とお礼を申し上げ、報告といたしたい。



次代を担う豊かな人間性と 生きる力を持ち、心身ともに 健やかな子どもの育成

第53回関東甲信越静学校保健大会

東京都学校保健会専務理事 内藤裕郎

関東甲信越静の学校保健関係者1200名が参加し、東京都教育委員会、東京都学校保健会の主催で今年度の関東甲信越静学校保健大会が8月23日東京国際フォーラムにおいて開催された。

10時30分の開会式に引き続き特別講演が行われ、午後より4会場に分かれ班別研究協議会が開催された。

特別講演

「生きていく力」の育成を目指す学校・家庭・地域社会の連携

Healthy Schools

講師 高石 昌弘 国立公衆衛生院顧問

第15期中央教育審議会代1次答申(1996)のキーワードである「生きる力」は単に「生きている」事ではなく、積極的に「生きていく力」であるとの考えのもと、「生きていく力」の育成を基盤とした21世紀の学校保健のあり方に関する講演がおこなわれた。ここにその内容を記す。

1 健康づくり運動の動向

国際的にはWHOのオタワ憲章にみられるヘルスプロモーションの理念がその後の国際的潮流の方向を定めた。学校保健分野に置いてはWHOが1995年に公表した“Global School Health Initiative”はその後“Health Promoting School”に関わる活動として今日国際的に具現化されている。

わが国における健康づくり運動は1978年、1988年の第1次、第2次国民健康づくり対策を引き継ぎ2000年の「健康日本21」、「健やか親子21」が策定された。そして1997年の保健体育審議会答申の冒頭に示されたヘルスプロモーションの理念の視点より「生きていく力」の育成こそがこれからの学校保健の最重要課題であると述べた。

2 第24期東京都学校保健審議会提言と

その概要より次の3項目に関して述べた。

1) 健康づくりの組織的取り組みとその重要性
児童生徒の健康づくりを推進するために学校・家庭・地域社会間の健康に関する共通認識が不

可欠であり次の4視点を述べた。

健康教育を通じての保健・給食の展開。健康づくりの組織的取組として学校保健安全計画の立案、学校保健委員会の活性化、地域学校保健会活動、行政組織との連携そして様々な情報の活用。加えて健康づくりの問題周知と改善・効果を測るための評価。

2) 健康づくり活性化を推進するための具体策
健康教育の充実：教職員の意識啓発、学校3師、地域関係機関の協力、研修の充実

健康教育作りのための組織作り：学校保健委員会を中心とした共通基盤づくり、学校保健委員会と学校運営連絡協議会等との連携などインターネットを利用した情報の提供：ホームページを利用した健康づくり方法の等、統計・調査データ、実践例、研修資料の提供目標設定と評価：各家庭における取り組みのねらいを確認し、どこまで達成したか、問題点、つぎの目標、そして評価が必要

3) “healthy school 2010”の展望

児童生徒の健康づくりの指針、学校・家庭・地域社会に求められる取り組みを長期展望をもって具体的な指標を提示して展開する必要がある、欧

米での“Healthy People”“Healthy Cities”、わが国における「健康日本21」、「健やか親子21」等に鑑みた“Healthy Schools”の概念を提唱した。

3 “Healthy School”の提唱と 新しい学校保健活動

どのような地域環境条件であろうと、どのような健康状態であれ、その条件や状態を少しでも良い方向にレベルアップしようとする健康づくりの努力の旺盛な学校こそが“Healthy Schools”つまり「健康学校」と提言した。

また新しい学校保健活動と総合性の視点より学校・家庭・地域社会の連携を再確認し、学校保健委員会にとどまらず小・中・高校の学校保健委員会が連携して協議する地域学校保健委員会の設置の促進を求め、地域における学校保健活動の進展を示唆した。

また地域保健法の制定より、縦割り行政を打破して地域保健と学校保健の連携を促進するよう対応する必要性を述べている。

そしてこれからの学校保健を考える最も重要なキーワードは「総合性」の視点であると述べ講演を締めくくった。

第53回関東甲信越静学校保健大会班別研究協議題

1	(学校経営と学校保健) 今日的な健康課題に対応するための学校保健のあり方	児童・生徒の「生きる力」をはぐくむための学校保健安全計画のあり方 ～学校教育目標の具現化のための①学校医等との連携による歯科保健・生活習慣病予防のための個別指導の充実②《体力づくり実践推進地区》指定との関連での保健学習等の充実～ 学校、家庭、地域社会の連携・協力を推進するための学校保健委員会のあり方 ～今日的な健康課題に対応するため学校、家庭、地域社会の連携・協力を推進する望ましい学校保健委員会のあり方について～
2	(健康教育) 豊かな人間性と実践力をはぐくむための保健教育	自ら考え、判断し、問題解決する力と豊かな人間性をはぐくむための保健学習のあり方 ～自己の学びをつなげて健康な生活を創造していく総合的学習のあり方・「体に良いおやつ大作戦」の実践を通して～ 自らの心とからだの健康を保持増進していく力を育てる保健指導の進め方 ～健康について主体的に考え実践できる子どもを育てる保健指導～
3	(学校歯科保健) 「生きる力」をはぐくむ 歯・口の健康づくり	確かな健康観をはぐくみ、自ら考え、正しく判断し、行動できる能力や態度を育てる学校歯科保健活動のあり方 ～生きる力をはぐくむ健康教育・ライフスキル形成を基礎とする歯・口の健康づくりを通して～ 「生きる力」をはぐくむ歯・口の健康づくりのあり方及び学校歯科医の活動のあり方 ～地域の歯科医療関係機関等との連携による、特殊教育諸学校における児童・生徒の歯・口の健康づくり～
4	(安全教育と環境衛生) 実践力を高める安全教育と快適な学校環境づくり	安全な生活について実践的に理解し、行動できる態度や能力をはぐくむ安全教育のあり方 ～二輪車の乗車に必要な交通ルールや安全運転に必要な知識・技能習得のための学校・家庭・地域社会の連携のあり方～ 学校環境衛生の日常点検・定期検診の進め方とその結果の効果的な利用方法 ～人的・物的な側面からみた学校環境衛生の進め方～

第37回 東北学校保健大会

宮城県実行委員会事務局

第37回東北学校保健大会及び第54回宮城県学校保健・安全研究大会並びに第51回仙台市学校保健研究大会が8月22日・23日の両日、仙台市で約660名の参加のもと開催されました。

「自主的に健康で安全な生活を実践できる幼児・児童・生徒の育成を目指して」を研究主題に掲げ、1日目は全体会、2日目は分科会とし、分科会は7分科会に分かれて実践研究・実践事例発表及び研究協議を行いました。



今年度から完全学校週5日制が導入されるとともに、新しい学習指導要領が小・中学校及び高等学校において順次実施される等、学校教育が新たな時代を迎えようとしている中、とくに「総合的な学習の時間」を念頭において研究主題として自主性を取り上げました。

また、近年重視されている「心の健康」については、全体会の記念講演の演題として取り上げていただくとともに、第3分科会を「心の健康分科会」としました。

1日目の全体会の記念講演は、都留文科大学文学部教授の河村茂雄氏が「養護教諭・教師のメンタルヘルス」－成人期の発達の視点から－の演題で、「社会の中の教師とメンタルヘルスの実態」を先生のこれまでの経験から分析され、「一人の人間としての教師の発達課題」、とくに第2の思春期と呼ばれる30代後半から60代の中年期の発達課題にどう取り組むのかという問題提起をされました。先生は「悩みながらもマイベストを模索して

いる教師が素晴らしい」とされ、安楽＝幸福感と生きがいとは別のものであり、生きがいを得るには自分の内面とどう向き合うかということを強調されました。その上で、「心の健康の維持は教育実践の前提」であり、養護教諭は学校の心の土台であると話され、養護教諭は自分があたりまえにやってきたということを、養護教諭同士でお互いに認め合って欲しいと話していただきました。

2日目の分科会は会場が大きく3つに分かれ、7つの分科会でそれぞれの研究協議題のもと2つずつの協議内容を設定し、各県から課題別実践事例を報告していただきました。質疑応答の後、参会者の情報交換を含めて活発な研究協議が行われました。また、分科会によっては、指導助言者からも積極的に話題を提供していただきました。

事前の打合せ会が充実していたこともあり、指導助言者からは的確な指導助言があり、それぞれの分科会のテーマが掘り下げられ、学校保健・安全・給食の今日的な課題が明確になりました。加えて、完全学校週5日制の実施に対応して、自主的に健康で安全な生活を実践できるような幼児・児童・生徒をどう育てるかという主題については、学校・家庭・地域の連携が重要であることがそれぞれの分科会で再認識されました。

最後になりましたが、本大会の開催に当たりまして、御協力をいただきました関係各位に深く感謝申し上げます。

なお、来年度は、第38回大会を福島市で8月7日・8日の日程で開催される予定です。

平成14年度 全国養護教諭研究大会

秋田県実行委員会事務局

標記大会が、秋田県秋田市において全国から1500名の養護教諭及び学校保健関係者の皆様をお迎えし、8月8日・9日の2日間にわたり開催されました。

今回で21回目となる本大会では、「21世紀に飛躍する養護教諭からのメッセージ－生きる力をはぐくむ心と体の健康づくり－」を主題に、全体会シンポジウムと部会分科会別研究協議が行われました。



また記念講演では、秋田県出身の水中写真家中村征夫氏が「地球ものがたり海・空・山・・・このすばらしき仲間たち」の演題で、魚たちの特性から学ぶ思いやり・親子愛などについて話されました。海の中にいると錯覚させられるようなすばらしいスライドで、心が洗われる思いでした。また、ご自分の子育てにも触れられ、子どもを怒る時とかわいがる時には、めりはりが必要だと優しい笑顔で話されたのが印象的でした。

全体会シンポジウムは、「養護教諭の専門性を行かした健康相談活動の進め方」をテーマに、5名のシンポジストからの提言をいただきました。

女子栄養大学三木とみ子教授は、養護教諭養成の立場から、健康相談活動の基礎基本・記録カードの活用等、体をとおした心と体の健康相談活動の大切さを力説されました。筑波大学心理学系渡辺三枝子教授は、カウンセラーの立場から、養護教諭だからこそできる健康相談活動について提言され、全国の養護教諭にエールを送られました。神奈川県厚木市立荻野小学校門田美恵子校長は、養護教諭を経験した学校長の立場から、子どもに関わる側の姿勢や連携の在り方について提言されました。先生が最後に話された『すべての子どもたちが「生き生きとした学校生活を送れるように」との願いをもち、教職員が力を合わせ、健康教育

の仕事を楽しみながら実現させていきたいものである。』と言う言葉が心に残りました。京都市立宕陰中学校田崎文子養護教諭と秋田県立大館鳳鳴高等学校安田眞理子養護教諭からは、日頃の実践を通して子どもに寄り添い、心を開かせる健康相談活動についての提言がありました。

会場からは、養護教諭一人一人が、自分自身で専門性を生かした健康相談活動を確立していく重要性などについて活発な意見が交換されました。

部会分科会では、全体会シンポジウムを受けた形で、養護教諭が行う健康相談活動の在り方をはじめ、健康の現代的課題への対応の在り方等8部会分科会で熱気あふれる協議が行われました。第4部会では、地域の小学校の学校保健委員会の公開と地域学校保健委員会のビデオ公開を行いました。この中の小学校学校保健委員会では、子どもたちの実態から3つのコースに別れ、これからの方向性について保護者からの提案がありました。多くの提案が保護者の目線でされ、子どもや保護者の行動変容につながる事が期待される有意義な話し合いでした。

本大会は、来年長野県で開催されます。また、長野県で全国の養護教諭の皆様から明日への力をいただく日を楽しみにしております。

(記録：秋田市立泉中学校 佐藤阿貴子)



事務局だより

- 6月号でお知らせしました月経教材(ビデオ、副読本)にはたくさんのご応募をいただき、ありがとうございました。1つでも多くの学校にお配りしたいと、協賛の大正製薬様のご好意で、予定よりも多く制作いただきましたが、それも8月末日をもって締め切らせていただきました。来年も同様の企画を考えておりますので、あらためてご応募いただければ幸いです。
- 本会がいろいろご指導をうけていた文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課森光敬子専門官は、厚生労働省健康局国立病院部政策医療課長補佐に栄転されました。
後任として、厚生労働省健康局疾病対策課長補佐大竹輝臣氏が就任されました。(9月1日付)

「コンタクトレンズ眼障害に対する啓発活動」

日本眼科医会常任理事 学校保健担当 う つ み よしかず 宇津見義一



使い捨てソフトコンタクトレンズ (SCL) の登場に伴い、コンタクトレンズ (CL) 装用者は増加し1,600万人ともいわれている。しかし、CLによる眼障害者はあとを絶たない。日本眼科医会 (日眼医) が調査したCL眼障害は、平成13年3月までの1年間に68,045件であり、全CL装用者の8～10%に眼障害が生じていることが推定される。さらに若年者の眼障害も増加しているため、日眼医では平成12年7月までの3カ月間に、全国の小・中・高校生の学校現場でのCLアンケート調査を行った。対象は小学校44校・19,235名、中学校61校・33,269名、高等学校56校・50,424名。CL装用割合は、小学校0.16%、中学校4.6%、高等学校21.9%。その中でCL使用による何らかの眼異常体験者は、中学生57.7%、高校生67.8%であるにもかかわらず、CLの定期検査を受けていない生徒は中学生60.3%、高校生70.9%であった。つまりCLによる異常があっても眼科医の検査を受けていないと思われた。以上はCLに関する認識の低さを示している。

児童生徒のCL眼障害を防止するためには学校での啓発活動が重要である。そのためには学校関係者の理解と支援を要するため、日眼医と日本CL学会は文部科学省と日本学校保健会に働きかけた。その結果、日本学校保健会は視力矯正指導小委員会を設立し「学校生活とコンタクトレンズ」という啓発冊子を作成した。本年度中に全国の公立・私立の小中高等学校そして各眼科学校医に配布される。この配布には多額の費用を要するため、日眼医は全国の会員および関連企業に寄付をお願いし日本学校保健会に協力している。この冊子を利用し、学校関係者ならびに眼科学校医を通じてCL啓発活動に役立てていただくことを望む。

CLは医療用具であり誤った使用は眼障害発生を

助長する。CL眼障害は症状としては充血、かゆみ、痛み、異物感などを生じ、結膜炎、アレルギー性結膜炎、巨大乳頭結膜炎などの結膜疾患や角膜炎、角膜潰瘍などの角膜疾患などがある。しかし、悪化すると角膜移植等の手術が必要になる場合や、永久的な視力障害を生じることもあるため注意が必要である。

CL眼障害の原因の多くは角膜の酸素不足である。角膜は眼表面の血管のない透明な組織で、空気中から涙に溶けた酸素を利用している。酸素供給のよいCLでも角膜の酸素濃度は富士山の頂上付近となる。装用時間が長いと酸素不足が続き障害は増えるので必ずメガネと併用する。

CLの種類は、ガス (酸素) 透過性ハードコンタクトレンズ (HCL) はSCLに比し重症な角膜障害は生じにくい。HCLでは障害の早期に異物感などの自覚症状が出てCLをはずすためである。また、レンズ自体が酸素を透過することと涙液交換による相乗効果にて、より多くの酸素が供給される。しかし、異物感があり、はずれ易いのが欠点である。SCLは装用感がよくはずれにくいですが、バンデージ効果 (包帯効果: 角膜障害があっても異物感が出現しにくいこと) のために角膜障害が進行してからでないと自覚症状に気づかないことがあり重症化しやすくなる。

頻回交換や毎日使い捨てSCLはガス透過性もよく、早期に捨てるため汚染されにくい。連続装用使い捨てSCLも安全と認識している装用者も少なくない。連続装用使い捨てSCLは睡眠中に角膜への酸素の供給がさらに低下するためすすめられない。

CL装用は装用時間、こすり洗い、洗浄そして消毒 (SCLのみ) と徹底した装用指導が必要であり、その啓発活動を学校にて積極的に行って欲しい。CLをつくる時は眼科専門医の診察・処方そして装用指導を受け、自覚症状がなくても眼疾患が生じていることがあるため眼科専門医の定期検査を必ず受けることが大切である。

「学校保健募金」寄付者ご芳名(No.2)

財団法人日本学校保健会では、学校保健活動を円滑に推進するため、「日本眼科医会」及び「日本コンタクトレンズ協会」のご協力のもと、「学校保健募金」をお願いいたしております。

この趣旨にご賛同いただき、ご寄付を賜りました方々は次のとおりです。誠にありがとうございました。

団体(順不同)

兵庫県眼科医会様(神戸市)
広島県眼科医会様(広島県府中町)
株式会社シード様(文京区)
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社
社ビジョンケアカンパニー様(江東区)
仁合理事長武藤興紀様(熊本市)
山口県眼科医会様(山口県宇部市)
チバビジョン株式会社様(品川区)
ボシュロム・ジャパン株式会社様(品川区)
香川県眼科医会様(高松市)
横浜市眼科医会様(横浜市)
神奈川県眼科医会様(横浜市)
和歌山県眼科医会様(和歌山市)

個人(順不同)

東海林幸子様(千葉市)
長田三和子様(愛知県碧南市)
丸山雅央様(茨城県つくば市)
坪田一男様(千葉市市川市)
武田純爾様(大阪府堺市)
門田正義様(兵庫県社町)
柳橋京子様(千葉県八千代市)
伊藤光枝様(愛知県一宮市)
堀口麻里様(名古屋市)

鈴木一作様(山形県寒河江市)
横山隆子様(千葉県我孫子市)
川路綾子様(名古屋市)
塚田孝子様(水戸市)
笹野信子様(名古屋市)
佐藤一宣様(山形県酒田市)
伊藤陽子様(福島市)
吉田善一様(兵庫県伊丹市)
加藤克彦様(千葉県八千代市)
有本慎吾様(港区)
魚谷純様(鳥取県米子市)
吉田博様(松山市)
三宅謙作様(名古屋市)
平野晴夫様(千葉県館山市)
佐野七郎様(大田区)
大蔵文子様(熊本市)
石川まり子様(大田区)
飯田昌春様(名古屋市)
種田芳郎様(神奈川県相模原市)
向井章様(神戸市)
千葉次郎様(千葉市)
藤岡憲三様(函館市)
千葉幸恵様(千葉市)
儘田直久様(大田区)

宇山健様(兵庫県芦屋市)
関 公様(千葉県習志野市)
久布白公子様(北九州市)
宮浦康児様(大阪市)
冠木敦子様(埼玉県熊谷市)
出田秀尚様(熊本市)
寺田永様(茨城県取手市)
高野繁様(川崎市)
奥村忠様(福井県武生市)
秋澤尉子様(大田区)
津坂洋子様(津市)
宇津見義一様(横浜市)
大坪成二様(大分市)
清水俊朋様(山口県豊浦町)
宮浦徹様(大阪府吹田市)
堀井あさ子様(名古屋市)
藤村和昌様(金沢市)
永田洋一様(東京都東村山市)
平岩道正様(愛知県豊明市)
岡田哲朗様(大分県別府市)
小林麗子様(新潟県見附市)
飯田勉様(千葉県木更津市)
宮澤文明様(長野県豊科町)
渡辺彩子様(新潟市)

小学生のためのうがい指導用教材

～副読本『うがいでげんき』～を贈呈

今年もかぜの季節がやってきます。今冬に流行が予想されるインフルエンザウィルスは、A型は昨冬と同じ「ニューカレドニア株」と「パナマ株」、B型は「山東株」といわれる昨冬とは別のタイプで、ワクチンは三種の混合が生産されており、昨年を大幅に上回るワクチン需要があるとみられているようです。

毎年、インフルエンザの流行による学級閉鎖がでています。貴校でのかぜ対策は万全ですか？

この度、(財)日本学校保健会では、明治製菓(株)協賛、健康と料理社発行の小学生向け保健指導用冊子「うがいでげんき」を推薦いたしました。

かぜ・インフルエンザ予防のためのうがい指導、どんなときにうがい薬が必要なのかなど、わかりやすく

推薦：(財)日本学校保健会
監修：医学博士 内藤昭三
マンガ：月岡貞夫・牧野タカシ
協賛：明治製菓株式会社
発行：健康と料理社



解説しています。小学生にもわかりやすくマンガで描かれたこの冊子をかぜ・インフルエンザ対策の資料として希望される小学校に無料進呈いたします。

学校保健委員会の教材として、保健室や各学級へ設置するなど指導用としてご活用いただければ幸いです。

また、うがい指導にあわせて、保健室には(財)日本学校保健会推薦商品の明治製菓(株)『イソジンうがい薬』などを常備されてはいかがでしょうか。



＜お申込方法＞

ハガキもしくはFAXにて下記の出版事務局まで、①学校名、②住所、③電話番号、④担当者名、⑤希望の部数、⑥活用先を記入し、10月末日までにお申し込みください。(数量に限りがございます。品切れの際にはご容赦ください)

＜事務局＞

東京都千代田区九段南4-7-19 3F 健康と料理社
TEL:03-5275-0554 FAX:03-5275-0200
担当者：河西・内藤

各地の活動ちょっと拝見④

小・中学生を対象とした “こども奉仕委員会”のスタートについて

学校医 ^{かまやち} 釜 范 敏 (高崎市医師会副会長)

はじめに 本年4月から新学習指導要領が実施され、学校は完全週5日制となりました。「総合的な学習の時間」が設けられるとともに、特に土曜日の休日は、ゆとりの学習、多様な生活体験、奉仕活動などへの有意義な活用が期待されることになりました。学校・家庭・地域社会が相互に連携しつつ、教育の基本としてこどもたちに「生きる力」をはぐくませることをねらっています。

このような中で、こどもたちの奉仕活動を積極的にお手伝いしようという社会人団体の動きがありました。それは、群馬地区のロータリークラブの活動であります。ロータリークラブが蓄積した奉仕活動の実績を何とかこどもたちの体験学習に役立てたいという思いから、ロータリークラブの奉仕活動の中でこども奉仕委員会が立ち上げられました。すでに、学校医・学校歯科医・学校薬剤師の中からその活動への大きな協力が得られています。おりしも、群馬県学校医会の会長であり県医師会副会長でもある正田博之先生が桐生ロータリークラブの会員として、群馬地区ロータリークラブのこども奉仕委員長に就任されましたので、この運動が一挙に加速されることになりました。

市の対応 私の住む群馬県高崎市では、永年にわたり多方面の協力を得て熱心な学校保健活動が行われてきました。各小・中学校で開催される学校保健委員会の活動を基礎として、AIDS・性教育をはじめいろいろなテーマに取り組んできました。このような背景のもとに今回のロータリークラブこども奉仕委員会活動の展開には、市の教育委員会、学校側、PTAの積極的なご理解が得られ、さっそく緊密な連携が図られました。高崎市にある6つのロータリークラブでは、それぞれのこども奉仕委員会が合同で同歩調をとりながらこの活動にあたることになりました。

県の対応 今年はこども奉仕委員会発足の初年度ですが、群馬県教育委員会がこのロータ

リークラブの活動を強力にバックアップされ、さっそく児童生徒の夏休みを中心とした奉仕の体験作文コンクールをロータリークラブと共催で実施し、優秀作品に対して表彰をしてくださることになりました。

奉仕活動の事例 文部科学省は、学校における奉仕の多様な活動事例として次のようなものを挙げています。環境美化運動、老人ホームなど福祉施設への訪問やお手伝い、農山村の自然へのふれ合い体験、職場での実習体験、在宅老人の訪問や幼稚園・保育園での人間的なふれ合い体験などです。さらに同省は、PTAや地域の有識者の協力を得て奉仕活動の学校サポート委員会（仮称）を作ることを提案しておりますが、そのメンバー構成こそ既存の各学校における学校保健委員会構成と重なるものでありますので、将来学校保健委員会活動の一環として考えることもあり得ると思います。今回のロータリークラブこども奉仕委員会活動はあくまで学校教育の延長として、学校との連携のもとに行われることが望ましい訳です。

保障などへの配慮 このようなボランティア活動の際に、当然ながら万一の事故に対する保障を考えておかねばなりません。一般的には、各市町村社会福祉協議会が提供する保険に加入した場合、県や市町村の補助があるため年間の保険料個人負担はごく僅かで済みます。学校での事故に対しては、日本体育・学校健康センター（昔の学校安全会）の保障があります。学校長が承認し、学校教育の一環として行われるこどもの奉仕活動上の事故については、ケースにもよるでしょうがこの日本体育・学校健康センターの傘の下に入るものと考えられます。

これからのこども奉仕委員会の活動に大いに期待したいと思います。

学校保健活性化のために



学校における今後の結核対策について

前文部科学省学校健康教育課 専門官 森光敬子

文部科学省においては、学校における今後の結核対策について、協力者会議を設けて検討を行ってきましたが、最終報告書が8月28日に取りまとめられました。

その概要は、以下のとおりです。

〈検討に至った経緯〉

○結核罹患状況の変化

若年者において罹患率が激減する一方、国民全体としては、罹患率が下がり一定の流行が続いており、その背景として、高齢化や地域間の格差が広がっていることなどがある。

○結核対策に関する変化

結核の罹患状況の変化を受け、結核対策については、結核罹患率が多いときには、非常に大きな効果を発揮した全員に一律に健康診断を行うようなやり方から、少ない罹患率に対して最大の効果をあげるために、個別に集中した施策へと質的な転換を図るよう、厚生労働省の厚生科学審議会から報告が出された。あわせて、小・中学校で実施してきたツベルクリン反応検査と検査の陰性者に実施されるBCGの再接種については、現在の罹患状況等から考えれば、マイナス面が目立つ手法となっているため、廃止が提言された。

学校における今後の結核対策の基本的な考え方

〈結核に対する基本的な認識〉

児童生徒が、万が一、結核に罹患した場合には、健康上だけでなく教育上も重大な影響があり、今日においても、結核は児童生徒の重要な健康課題である。また、学校における集団感染の可能性を考えれば、学校教育を円滑に実施するためにも、学校として、引き続き結核対策に取り組む必要がある。

〈結核対策の基本的な考え方〉

これまでの、予防接種及び定期健康診断を中心とした対策であったが、ツベルクリン反応検査及びBCG再接種の廃止を踏まえ、今後は、①児童生徒への感染防止、②感染者及び発病者の早期発見・早期治療、③患者発生時の対応の3方向からの対策を実施・強化することによる多面的な対策への転換が必

要である。また、その際、④学校保健と地域保健の連携を強化していく必要がある。

これまで	今 後
予防接種及び定期健康診断を中心とした対策	①児童生徒への感染防止 ②感染者及び発病者の早期発見・早期治療 ③患者発生時の対応 ④学校保健と地域保健の連携を強化

充実・強化

学校における今後の具体的な結核対策

1 児童生徒への感染防止対策

- ①地域における結核流行状況及び児童生徒のBCGの接種状況の把握と教育活動への適切な反映
- ②教職員の健康診断の徹底

2 感染者及び発病者の早期発見・早期治療対策

- ①定期健康診断
主なポイント
 - 問診を行い、対象者を絞り込んで重点的な検査等を実施
 - 問診は、全学年に対し実施
 - 内科検診の充実
- ②結核に関する健康相談の実施
- ③結核に関する正しい知識の普及啓発
 - 結核を疑わせる症状がある場合には、早期に医療機関を受診することができるよう普及啓発

3 患者発生時の対応

- ①出席停止の措置の適切な実施
- ②接触者検診への協力と必要時の臨時健康診断の実施

4 地域と連携した結核対策の検討

結核の発生状況には大きな地域差があること、感染防止のために情報を収集し提供することや患者発生時の速やかな対応を考える必要があること等から、今後は、学校単位ではなく、地域保健と連携し、地域として結核対策を考えていく必要がある。

そのため、各教育委員会等においては、保健所、結核の専門家、学校医等の協力を得て、地域における学校の結核管理方針を検討することが必要であり、また、必要に応じて、委員会を設けるなどして、十分に連携を図ることが重要である。※

※大都市の場合では、教育委員会が主体となって、保健所等の関係機関と連携を図りながら、委員会を運営し、規模の小さい市町村の場合では、結核診査協議会を有する保健所の管轄区域を勘案し、複数の市町村が合同で委員会を開催するなどの様々な形が考えられる。

平成14年度「学校保健用品・図書等推薦」申請一覧（追加分）

平成14年4月1日～平成15年3月31日

No.	品 目	摘 要	会 社 名
1	うがいでげんき	うがいの方法・効果をわかりやすく解説(マンガ表現)	有限会社健康と料理社
2	あわてずあせらずきちんと手当て	すり傷・きり傷をはじめとしたケガの手当てについてわかりやすく解説(マンガ表現)	有限会社健康と料理社
3	名探偵コナン熱中症予防啓発ビデオ「熱中症の謎を解け」	熱中症発生のメカニズムと予防法を「名探偵コナン」が解説	大塚製薬株式会社
4	ネスレ ミロ	カルシウムの吸収を促進する飲料	ネスレ日本株式会社
5	室内空気環境管理計	教室の空気汚れモニター(温度・湿度計付)	新コスモス電機株式会社

虎ノ門 (64)

禁煙指導は模索する

最近、鉄道駅や飛行場では「投げ捨てたばこの吸殻」が見当たらず本当にきれいになった。分煙も徹底したきた。喫煙習慣のある男子生徒に注意すると「俺の体だ。自由だ」煙が立っていても「俺じゃねー」とうそぶかれたことを思い出す。

愛煙家にとって、車内も機内も会議室でも「吸えない」時間が続く。近所の男性は家の外で吸っている。きっと家内のきまりがあるらしい。

東京都千代田区が「たばこのポイ捨て罰金条例」を決めた。出勤途中の渋谷「はち公前交差

点」歩道付近は毎朝掃除するボランティアの好意も無視するように相変わらず夕方には大人のポイ捨て吸殻でやまになる。

宇都宮市教育委員会は「新年度から市立80校の小中学校を完全禁煙にする方針、現在保健所長、市学校保健会長、養護教諭も入った委員会で具体策を検討中」と8月20日全国紙に発表された。「禁煙指導は隗より始めよ」と先生方は来年度以降職員室はもちろん、校庭の片隅でもたばこが吸えなくなる。「たばこをやめられない先生には医師を紹介し、禁煙プログラムにチャレンジさせると」大野学校保健体育課長はいう。成功を祈りたい。

(編集委員 松本國夫)



「趾(あしゆび)のはたらき」

足と靴のはなし(6)

足は私たちの身体をささえて動かす大切な器官ですが、足の健康には、趾(あしゆび)がキチンと使えることが重要です。趾を使うと、土踏まずが形成され、足の形をバランスのよい逆三角形にするだけでなく、身体の各部位の運動によって筋力が強化され、柔軟性が向上して身体の歪みが矯正されると共に、心身の運動によって情緒が安定し、脳も活性化するのです。

しかし、最近ではこの趾の運動が十分でない子ども達が増えています。何本かの趾が地面に接地せず、浮いている子どもが半数近くに達しているだけでな

く、1本も接地していない子どもまで出現していると、元兵庫教育大学教授の原田碩三先生は警鐘を鳴らされています。子どもの足の健全な発達のためには、なによりも趾が十分に使えて強くできるはきものが必要です。

JESシューズは、趾(あしゆび)がキチンと使えることを考えて作られた、スクールシューズです。



21世紀の健康

日本教育シューズ協議会
岡山市西川原1丁目11番6-1号
〒703-8258 TEL.(086)272-5463

ショク21研究会に参加しませんか。

飽食の時代といわれる中、子どもたちの食事内容は動物性食品にバランスが偏っており、脂肪を過剰に摂取している反面、ビタミン・ミネラル、食物繊維は不足しているといわれます。肥満や高コレステロール値の子どもも増加しており、将来さまざまな生活習慣病を招く危険性が心配されます。

その一方、アイドルへの憧れなどから無理なダイエットをして摂食障害に陥る例もあり、その弊害が指摘されています。

このような状況の中で、(財)日本学校保健会でも生活習慣病防止教育に取り組まなくてはならないと考えております。

そこで、今回「食」をテーマに、教育現場を含め、多くの人々に参画して知恵をいただきながら、生活習慣病防止教育の知識の啓蒙と普及に資するため、下記要項によりショク21研究会を立ち上げることに

しました。奮ってご参加いただけたら幸いです。資料請求は郵便かFAXで財団法人日本学校保健会までお申してください。ご連絡いただいた方々には、詳細な案内をお送りします。

記

- 1.目的 食に関する正しい知識を収集、情報化し、普及する。
- 2.主な活動 会報の発行、ホームページの運営、研究会の開催、出張授業(講師派遣)など。
- 3.分野(予定) 栄養学、医学、歯学、食料、料理調理方法、食産業、食行政、食法律など。
- 4.企画・事務局 財団法人日本学校保健会
〒105-0001 東京都港区虎の門2-3-17
虎の門2丁目タワー6階
TEL.03-3501-0968 FAX.03-3592-3898

カゴメスクール開催のご案内

主 催 カゴメ株式会社
後 援 財団法人日本学校保健会
ショク21研究会

ショク21研究会の活動の一環として、カゴメスクールを開催希望の小・中学校に、ショク21研究会所属の先生方が訪問し、講義をします。

講義のテーマは徐々に増やす計画ですが、今回は「健康と野菜」です。野菜を食べて、上手に健康増進に役立てるため、健康と野菜の効用について、できるだけやさしく説明する講義です。

○講義の時間は50分(お話しを30分程度)を目安にしておりますが、希望によって時間は変更できます。

○参加者は、小学生・中学生・教職員・保護者を含めどなたでも参加していただけます。参加人数は

問いません。

○開催場所は、学校施設(屋内)を利用させていただきます。

○用意していただく機材については、事前に打合せさせていただきます。

○講師派遣費用(交通費を含む)、配布教材は無料です。

○申込先 〒104-0044

東京都中央区明石町3-3 新明ビル3F

カゴメSPサービス内「カゴメスクール事務局」宛

TEL 03-3543-6366 (土・日・祝日を除くAM10:00~PM5:00)

FAX 03-3543-6260

上記まで、学校名、住所、電話、担当の先生、開催希望日時、対象人数をご記入の上、郵便またはFAXにてお申し込みください。

Yamanouchi

山之内製薬

キズに
マキロン

効能：すり傷、きり傷、創傷面の殺菌・消毒に

●山之内製薬ホームページ <http://www.yamanouchi.com/jp/healthweb/>

30mL
新発売



外での

キズに
マキロン

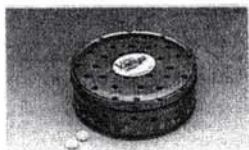
効能：すり傷、きり傷、創傷面の殺菌・消毒に

これらの商品は、「使用上の注意」をよく読んで用法・用量を守って正しく使うようおすすめ下さい。

お問い合わせ先：
山之内製薬(株)製品情報センター 電話：03-5916-5500
(9:00~17:00/土・日・祝日・会社休日を除く)

カワイ肝油ドロップ

発育期に欠かせないビタミンが凝縮されたカワイ肝油ドロップは、「わんぱく」を応援します。



ビタミンA・D+ビタミンC



ビタミンA・D+カルシウム



製造 河合製薬株式会社 販売 河合薬業株式会社
東京都中野区中野6-3-5 ☎03-3365-1156(代)

からだに必要な 水分とイオンの補給に

(財)日本学校保健会推薦



ポカリスエット

商品に関するお問合せは
大塚製薬株式会社 03-3292-0021
ホームページ <http://www.otsuka.co.jp/>

「ポカリスエット」1ケース
抽選で10校様へ無料進呈します
学校名、住所、TEL、ご担当者名を
記入の上、官製ハガキにて下記「健
康と料理社」宛てにご応募ください。

※当選発表は発送をもって代え
させていただきます。
応募〆切：平成14年10月31日

応募に関するお問合せは：健康と料理社 東京都千代田区九段南 4-7-19 TEL03-5275-6838 / 担当 木挽



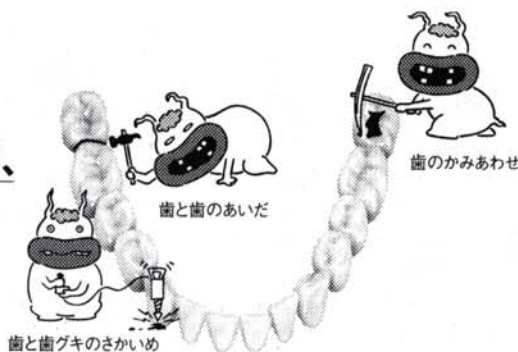
なんか、からだが、いいもち。



すっきり、新野菜ジュース。
KAGOME 野菜生活100

あしたに、あなたに
LION

ハブラシの届きにくい所が、
ムシ歯になりやすい所。



「先端丸形カット」の

**ライオン
こども
ハブラシ**



推薦：日本学校保健会